

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	我が家で暮らし、地域の中で入居されている方が一人の人として生活していただくことを目標としている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ここは我が家だ」という理念を職員が共有しており、目につきやすい場所に掲示いつでも確認できるようにしている。地域の中で入居されている方が一人の人として生活しているように、理念を意識して、ケアに携わっている。	○	どのようなことをやってほしいか、知りたいかなど、聞き取ったことをもとに、福寿草からの呼びかけや活動を増やしていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月に1回実施している運営推進会議などを通して御家族や地域の方へ日頃の取り組みを報告しており、また出席されている地域の方を通じて町内会・地域とのパイプをもつことで、地域の一員として生活していくことを理解して戴けるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣家の方より野菜をいただいたり、顔を合わせた際には挨拶が出来るような関係が出来ている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の大学の学祭や、幼稚園のお遊戯会など見学させていただき関わりをもち、また町内会の清掃などに参加し交流をもっている。	○	町内会行事などのキッカケを活用し地域の方へ、地域の中で認知症の方が生活していくために必要な取り組みの説明をしていきたい。また、福寿草通信などで、気軽に遊びに来てもらえるよう呼びかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域へ発疹できるものがないかをアセスメントして、グループホームに入居されている方も、地域の高齢者も孤立しないような取り組みを出来ないか検討している。	○	地域へ福寿草通信に、認知症、各福祉施設の内容などの知識を施設職員にとって当たり前のことであっても地域の方々にはそうでないことを踏まえて記載し、回覧板見ていただける形をとる予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が作成し、外部評価を実施する意義を理解し、取り組むよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時に報告を行い、出席者からの意見・アドバイスをいただき、それを職員会議などで職員へ報告し、話し合い、日々のサービス向上へいかしている。	○	どのようなことをやってほしいか、知りたいかなど、聞き取ったことをもとに、福寿草からの呼びかけや活動を増やしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が行う研修等には積極的に参加し、サービスの質の向上に努めている。必要時に連絡・連携はとっており、報告を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内研修等での勉強会や、必要に応じて各関係機関との連絡・連携をとり、支援を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内での研修で虐待についての勉強会を実施したり、資料・マニュアルを配置している。また、入居者家族来所時には様子を観察している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでの過程の中で、疑問や不安があれば言ってもらえるような雰囲気作りを行い、また資料なども使い納得できるまで説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・職員へ不満・苦情・意見を言える流れが、雰囲気が生活の中でできている。苦情・不満・意見があった際には、それを検討・分析・反省を会議時に行い、反映させるよう努めている。また、目につくところに外部相談機関のポスターなどの掲示を行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	御家族来所時に各種報告を行っており、毎月1回お手紙などでも入居されている方の状態報告・金銭の使用状況の報告を行っている。必要に応じて、その都度の連絡(報告)を行っている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者へ不満・苦情・意見を言える流れが、雰囲気ができており、併せて系列の法人より苦情の報告が入るようになっていいる。外部相談機関のポスターを掲示し、外部の相談も可能となっている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やその都度、機会を設け意見交換を行い、出来る限り反映できるように心がけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日々変わる状況に対応できるような体制はとっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動も入居者の状況に応じて行っており、なじみの職員の支援を受けられるよう努めており、支障のない形で異動を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事務所(休憩場所)に研修内容を掲示し積極的に講習会、研修会、勉強会を実施し開催している。また、法人外から講師を招いて勉強会も実施している。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的ミーティング・勉強会・同一法人内の他施設との交流を通じサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス、悩みを把握できるよう努め、寄せられた声には改善できるよう心掛けている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の介護に対する考え方などを把握し、基本理念に基づき個性の向上に活用される環境を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期アセスメントに重点を置いて、御本人との対話する機会を多く作り不安がないように配慮出来るように情報を把握できるようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期のアセスメントに重点を置いて話し合う機会を作り、入居前の生活状況・習慣などの情報を収集し、その人らしい生活を送って頂けるよう御家族さまとのコミュニケーションも密にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期アセスメントに重点を置き、それに相応したサービスの説明を行い内容を把握し理解して頂いています。御本人、御家族の意向なども合わせて確認して必要とする支援を見極めて対応しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御本人が入居する以前に御家族様より多くの情報を頂き職員全員で雰囲気回りの為の相談や工夫を行なっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中でコミュニケーションを取ったり常に学ぶ姿勢で接し声掛け工夫をしています。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族から御本人に対する思いを常に受け止められるような関係を築き努め御家族が気軽に訪問し御本人とゆっくりと過ごして頂ける環境を築き整えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設の行事等を利用し御家族に参加して頂いたり、またなかなか来所できない御家族には電話や手紙で受診内容や近況報告をし、よい関係が築けるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院、買物等希望があれば出来る限りの支援をし、また入所前の友人等との関係も途切れないよう支援している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活の中で入居者が孤立しないようにホールなど共有スペースに誘導し、職員が間に入り関係を築き上げていく配慮をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院にて退所された入居者のお見舞いなどに向かうなどし関係継続を心掛けている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の希望を取り入れ御家族の希望を尊重しつつ生活の質の向上、日常生活動作能力を検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活に重点を置き担当病院、担当医に情報提供していただき把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の介護記録や職員からの情報と個々にコミュニケーションをとりながら見極めるようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御本人、御家族の意見を聞き個別介護計画をミーティング等で話し合い、介護計画作成に反映させている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度のモニタリング、月に一度のケースカンファレンスを行い身体状況に伴い介護計画の見直しに取り組んでいる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入、申し送りによる日々の情報の共有しながら見直しに生かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や体操やレクリエーションをじっししたり、自然な形で身体機能の低下を防いでいる。マイクロバスに乗り合わせ外出行事の実施も行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進員会議に民生員の参加、自衛消防訓練において地区の消防署に協力を得ています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美理容サービスを毎月利用出来る様支援しています		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが定期的開催するケアマネジャー交流会や研修会への参加包、括支援センター職員からの定期的な連絡など連携が図れる様に取り組んでいる		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人御家族の希望を尊重し、経営母体である診療所を協力医療機関として契約し日常の健康管理その他の相談助言の医療支援を受けられるよう整備している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師と相談し必要に応じた紹介を受けられるよう努めている		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関と医療連携体制の契約を結び、訪問看護を依頼、健康管理、通院治療の相談等の支援を行っている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との情報交換、御家族への状況報告などし対応を行っている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療機関からの情報を共有し、御本人および御家族の主張を尊重した上で今後の方針に取り組むよう努めている		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「重度化した場合における対応にかかわる指針」を策定、御家族近親者の意思を確認し施設、医療機関、御家族が共に支援に取り組めるよう努めている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅での生活状況の把握、その上で暮らしの継続性が保たれるか家族とも充分協議を行い、施設での生活が抵抗少なく送れる様取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活におけるプライバシーを徹底して管理出来る様、取扱いには十分注意し、医療機関、家族との情報を共有することで施設での生活をスムーズに行える様支援している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個人の力量に合わせ、自己の決定が出来る様取り組んでいる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の特徴を活かした介護計画による支援を心掛けている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好みに合わせた支援を行っている。訪問美容室が継続的に来て下さっているが、利用内容、利用の有無も本人の意思を尊重して利用される。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど出来る事を、お願いしている。準備、片付けを一緒にする事が難しくなってきた。	食べこぼしなど、さりげない支援を心掛けているが、エプロン、タオルなど一人一人の誇りを損ねないよう配慮したい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人一人の好みを職員が理解しているが、本人に再三確認をするようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄チェック表を付け一人ひとりに合わせた、随時の誘導を行っている。		オムツ使用が減る様、支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴をとりわけ好む入居者は少ないが、ゆったりとくつろげる支援を心掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	不眠を訴える方には、日中の散歩やリハビリを通じて、夜間の睡眠リズムが取れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る範囲で役割を決め作業等して頂いている。その都度声がけし出来るだけ一緒に行うようにしている。		手芸の時間を作り、完成までの楽しみと、出来上がった喜びを共有している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外出時には、お金を持参して頂き、使える場を提供している。お金の使用については、本人の希望を聞きながら、買い物の際は自分で所持していただき、支払いを支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調をみて外出しているが、希望に添えない時でも、外気にあたるベランダ、屋上へ散歩に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとに外出行事を計画実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望により支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	明るく挨拶し入居者と一緒にお茶を飲んで頂いたり、様子を伝えたり、部屋でゆっくり過ごしてもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で身体拘束は禁止行為である事を都度認識し合い、身体拘束をしないケアを実践している。		定期的に研修必要
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠せず自由に外に出られる状況だが危険を伴う入居者もいる為、必ず職員が同行し、外出の明らかな察知についてはセンサーで知る事が出来るよう対処をおこなっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に一人ひとりのプライバシーに配慮しながら、昼夜共に把握し安全確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一定の保管場所を設定して危険の無いようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状況を把握し、事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応についてマニュアルを作成している。職員全員が把握し医師による、研修会などでAEDの操作方法など実践的な研修を受講している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、年2回行っており、夜間想定もしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族に支援内容、その理由を説明し、起こりうるリスクについて理解を頂いている。日常的に話し合いがなされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝健康観察を行い、体調変化に気をつけている。おかしいと思う場合は、看護師、管理者に報告相談し速やかに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方等変わった場合、みるみるシートや口頭にて情報を共有している。服薬は飲み込みまで確認し、症状の変化にも気をつける様、心掛けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘の早期対応に努めている。食事量、特に水分量に注意を払い快速便茶、腹部マッサージ等を行っている。食事メニュー（ひじき）も工夫している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアの支援を行っている。無菌の方には、うがいの声かけ支援を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量は毎日チェック、記録し情報を共有している。又、他の水分を希望する方には、代替の飲物を用意し対応をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、会議等で話し合いをし随時対応できる様にしている。外出から帰宅の際には手洗い、うがいを励行しインフルエンザの予防接種は職員も全員受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材確認は毎日し、冷蔵庫清掃は週2回し、まな板、布巾等は毎日漂白している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	大きな看板があり、駐車場も広い。玄関前は家庭菜園もあり、いつでも気軽に出入りが出来る様になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いリビング・ダイニングと日当たりの良い大きな窓があり、外の風景で季節感も楽しめ騒音もなく、ゆったりと生活出来るようになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが何箇所もあり、他入居者と過ごす時間を持つことができ、一人で過ごしたい時は居室でも自由に過ごすことが出来る。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	元々本人の使用していた家具等持ち込むことが出来る。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、よう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計を設置し職員が定期的に確認し、こまめに換気を行われ環境整備に心がけている。排泄介助を行った後は換気や消臭スプレーで配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内各所に手すり設置、安全に生活出来るよう段差のないようバリアフリー構造、安全確保のため家族と相談しセンサーの活用もされている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人の残在能力を活かした支援を常に基本として心掛けている。失敗による混乱や喪失感がないよう配慮し、出来ない事はスタッフがお手伝いしながら行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑、物干し場、園芸スペースがあり、手の届く所に花、野菜を植え外気浴の際、楽しめるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。) 経営母体が医療機関であるため、緊急時の対応が迅速に行うことが出来る。 関連法人による他の介護保険サービスも充実しており、退去後または家族、親戚、知人の介護にかかわる相談にも対応可能 入居料金を低価格に設定し、御家族の費用面での負担軽減を図っている。 運動機能の低下防止を考え、毎日ラジオ体操、歩行運動を行っている。 生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、献立、調理はバランスを考慮し、新鮮で安全な食材使用に努めている。 毎月、御家族様に入居者さんの様子を手紙にまとめ、施設通信と一緒に送付しお伝えしている。
--